

日 1. 世界に誇る戸別配達制度を堅持し
 版 わが国の政治・経済・文化の発展
 協 と民主主義の擁護に貢献する
 綱 2. 新聞の持つ公益性に基づき公正な
 領 販売を期する
 3. 新聞販売店共通の目的である経営
 の健全化を追求する

日販協近畿報

https://nippankyo-kinki.com

一般社団法人日本新聞販売協会近畿
 大阪府北区天満4丁目14-19
 天満パークビル4階
 電話06(6450)5671/FAX06(6450)5672
 nph-kinki2@vivid.ocn.ne.jp
 発行責任者 高橋 宗浩
 広報委員長 水谷 光行

(一社)日販協近畿 2024年度の役員(案)

理事長	水谷 和郎	毎日	浅香駅前
副理事長	小西 康弘	読売	柏原
専務理事 (総務統括)	真辺 譲司	毎日	西明石
専務理事	岩田 達承	朝日	千里山
専務理事	保田 満範	産経	大正南
専務理事	辻 昭彦	京都	羽拍子
専務理事	畑 善章	神戸	春日
専務理事	大塚 玲	日経	九条
監事(常任)	二宮 泰彦	神戸	垂水
常任顧問	高橋 宗浩	京都	瀬田
常任顧問	山田 貞夫	産経	桜橋
顧問	田中 明子	しんわ税理士法人	
事務局長	梁瀬 秀則	事務局	
常任理事	松島 大輔	朝日	甲子園
常任理事	片川 章	朝日	学園前
常任理事	明智 隆夫	産経	津田
常任理事	立松 英樹	産経	高槻東
常任理事	田中 淳志	産経	生駒
常任理事	中田 純司	京都	山科大石
常任理事	中尾 臣裕	京都	亀岡
常任理事	中村 龍男	毎日	豊中
常任理事	桐山 政孝	毎日	郡山南
常任理事	吉岡 大輔	読売	高槻南
常任理事	瀬島 義郎	読売	明石大久保
常任理事	小谷 浩一	読売	西大津
常任理事	松田 公仁	神戸	藤原台唐櫃
常任理事	播田 伸治	神戸	加古川
常任理事	佐野 雅一	日経	大阪中央販売



次期理事長に内定した水谷氏

今期最後の理事会開催 次期体制が内定

次期理事長・水谷氏「新聞販売店の経営基盤の改善を」

一般社団法人日本新聞販売協会近畿(高橋宗浩理事長「京都・瀬田」)の2023年度最後となる理事会が4月8日、大阪府北区のカーデンシティアラフ大阪で開かれた。次期理事長に水谷和郎副理事長(毎日・浅香駅前)が内定するなど新体制が固まった。任期は2年。理事会で水谷副理事長は、1

年間で5・5%の会員が減っていく現状は「危機的状況」だと指摘したうえで、新聞販売店の経営基盤の強化が急務であると強調。「日販協近畿の目的は、新聞戸別配達制度を担う新聞販売店の経営基盤の改善を志向しつつ、社会の課題を新聞販売というビジネスの力で解決していくこと」だ。2024年度を先行

の年としたいと抱負を述べた。5月16日に大阪市北区・新阪急ホテルで開催される、通常総会で退任する高橋理事長はこの2年間、本当にありがとうございました。5月の通常総会がうまくいくよう、ご協力を」と感謝の言葉を述べた。

理事会では各委員会・各支部から活動報告があったほか、議案(23年度事業、回収支決算、同監査、24年度事業計画、同予算、新理事選任)を承認した。議案は各会員に郵送され、書面で決議される。議案書の返送は事務局へ5月2日必着。

(2面へつづく)

高橋理事長「一日も早い販売正常化を」

一般社団法人日本新聞販売協会近畿 2023年度最後の理事会



冒頭、挨拶に立つ高橋理事長(中央)。2年間の任期中に日販協近畿を任意団体から一般社団法人へ移行させた



組織向上担当委員長の水谷副理事長



会貢献担当委員長の堀部専務理事



広報担当委員長の水谷専務理事

（面からつ）
電動バイクのレンタルは次年度に
理事会は社務専務理事・総務統括(京都・羽拍子)の司会進行で行われ、保田満範専務理事(産経・大正南)が議長を務めた。
冒頭、高橋専務理事長(京都・瀬田)は「きょうは皆さんに総会の議案書を審議・承認していただき、議案書を各委員に送付するのたがらになっていく」と述べた。また、7月29日に東京で開催される日販協全国本部の総会を執行部の他に「次世代枠」として各系統から一人出席を要し、日販協全国本部が進めるSDGs活動「電動バイクのレンタル」についてメーカー側のバック提供の遅れで近畿地区の実施が次年度になることを説明した。

さらに高橋理事長は、3月21日に東京で開催された関西地区新聞販売改革推進会議に触れ、「新聞社のトップから一定の評価はされているが、販売改革の進捗(しんちょく)状況はわかりやすい指標で示すよう求められ

ている。再び、(正常化の状況を示す)ABCランクをやるかもしれない」と述べたうえで、「日販協としても正常化を推進している。福田本部長のとき、『完全正常化元年』を宣言した。2019年5月の通常総会で、「一日も早い完全正常化を実現できるまで、皆さんの協力を得ながら次年度も進めていた。引き続き」と呼びかけた。

6 委員長から活動状況について報告
続いて各委員会から報告が行われた。広報担当委員長の水谷光行専務理事(神戸・大倉山)は今回、専務理事を退任する。2年間、ありがとうございましたと感謝の言葉を述べ、「月に一度も構わないので日販協近畿のホームページをぜひご覧いただきたい。また、この業界は問題が山積していますが、次回執行部の皆様は頑張ってください」と挨拶した。

同じく今期で専務理事を退任する、社会貢献担当委員長の堀部正専務理事(朝日・阿倍野北)は「この4年間、社会貢

献活動を務めた。三本柱である献血活動、見守り活動、新へ教(すべての教室へ)学校図書館の新聞配付推進(府4県の市町村をまわった。すべての市町村が好意的ではなかったが、奈良県田原本町などは予算(地方交付税)の中で新聞を置いていた。ただ、私たちが取り組まなければならぬのは「コミュニケーション(自治体、教育委員会、学校)の末端の方に引寄せよう」ということを聞いていた。ところが、大変なことがあった。支店に一部を取り戻すことは難しいかもしれないが、コミュニケーション(自治体、次期体制にエールを送った。組織向上担当委員長の水谷和郎副理事長(毎日・浅香町)は「この2年間、会費(きまい)協力をいただいたことがございまして、お礼を述べ、「1周年事業は成功裡に終わった。引き続き協力を依頼したい」と挨拶した。

折次担当委員長の大家玲専務理事(日経・九条)

(3) 面(つ)

(4) 面(つ)

店経営の効率化・新規事業の開拓を支援

事業・業務委員会 6 委員長が活動報告 通常総会の議案を審議



法規公正担当委員長の保田専務理事



労務環境担当委員長の武藤専務理事



折込担当委員長の大家専務理事

2023年度事業報告の要旨

- ▼23年5月に任意団体の日本新聞販売協会近畿地区本部から一般社団法人日本新聞販売協会近畿に組織変更
- ▼「地域に必要とされる存在であり続けるために」をスローガンに掲げ、「事業」と「業務」の二つの委員会専務理事を中心に「広報」「社会貢献」「組織力向上」「折込」「労働環境」「法規公正」に取り組む
- ▼ホームページをリニューアルし広報力を強化。また、紙媒体の「近畿報」をデジタル化することで経費削減を実現
- ▼11支部で献血活動（1610人受付、1391人採血）、各地で「すべ教」運動推進、学校図書館への新聞配置を推進（奈良県の田原本町と橿原市では地方交付税での新聞配置が実現）
- ▼創立70周年記念事業として「新聞販売店の新規事業」をテーマに、静岡県浜松市の新聞販売店アウンズ・ヤナギハラの柳原一貴社長を招き講演とパネルディスカッションを大阪で開催
- ▼能登半島地震で被災した新聞販売店へ支援金100万円を届ける

2024年度事業計画(案)の要旨

- ▼「新聞戸別配達制度を担う新聞販売店の経営基盤強化に関する事業」に取り組んでいく。具体的には販売店経営の効率化および新規事業の開拓を支援するために大阪商工会議所や士業（弁護士・税理士・司法書士・行政書士・社会保険労務士）の専門知識を得る窓口（特に補助金・助成金の獲得）として活動する
- ▼系統会、折込広告連絡会議、五日会との懇談を通してより良い関係を築き、組織強化を図る。休刊日の増設、折込の増収、販売正常化、予備紙の適正化、営業手法の改善に向けて協議していく
- ▼各支部では献血、すべ教、学校図書館への新聞配置推進を中心に活動を展開
- ▼執行部が支部活動を支援
- ▼日販協近畿の声を議会へ届ける活動を展開
- ▼ホームページで広く一般に活動を知ってもらうのと同時に会員相互のコミュニケーションツールとして活用

（2面からつづく）
は、折込広告の収入アップについて「いままでも（折込広告会社）言いつけてきたが、これからも引き続き」と強調した。

労務環境担当委員長の武藤専務理事（読売・垂水）は「私も今回の任期で役を下りるので、労務環境が敵になった。労務環境が敵しい中でこの2年間は何

ができたか。中途半端な形で次期に託すことを心苦しく思う」としたうえで、外国人就労に触れ「育成が外国人就労に触れ「育成が外国人就労に触れ「育成が外国人就労に触れ」

会販売委員会に協力を要請している」と説明。休刊日の増設については「この2年間、進展はなかった。今後、一番の問題として取り組んでいきたい」と述べた。

法調公正担当委員長の保田専務理事は「正常化についてのアンケートを行った。その結果をもって五日会（販売局長会）に対して『3エスの地区が残っている』など状況を説明した。また、日報協として販売正常化に積極的に取り組んでいく必要がある」とし、「消費生活センターに寄せられる新聞販売に関する苦情をゼロにするために、従業員さんに啓発するポスターを作製していく」と

述べてた。
議案を審議承認
次年度の方針決定
各支部の支部長から、献血活動の実施、支部総会の開催、今後の予定などについて報告があった。支部によっては、折込広告の収入アップ、古紙袋の有料化についても
通常総会の議案（2023年度事業、同収支決算、同監査、24年度事業計画（同予算、同理事・新理事選任））を審議し、承認した。24年度の日販協近畿は販売店の「経営の効率化」と「新規事業の開拓」を支援していく。23年度事業報告・24年度事業計画の要旨は左記の通り。
（4面へつづく）

「休刊日増設について意見交換を」

(一社)日販協近畿 2024年度の人事案

事業委員会

広報担当委員長	岩田 達承	朝日	千里山
社会貢献担当委員長	畑 善章	神戸	春日
組織力向上担当委員長	辻 昭彦	京都	羽拍子
委員(常任理事)	田中 淳志	産経	生駒
委員(常任理事)	中尾 臣裕	京都	亀岡
委員(常任理事)	桐山 政孝	毎日	郡山南
委員(常任理事)	吉岡 大輔	読売	高槻南
委員(常任理事)	瀬島 義郎	読売	明石大久保
委員(常任理事)	松田 公仁	神戸	藤原台唐櫃
委員(常任理事)	片川 章	朝日	学園前
委員(常任理事)	立松 英樹	産経	高槻東

業務委員会

折込担当委員長	大塚 玲	日経	九条
労務環境担当委員長	小西 康弘	読売	柏原
法規公正担当委員長	保田 満範	産経	大正南
委員(常任理事)	松島 大輔	朝日	甲子園
委員(常任理事)	明智 隆夫	産経	津田
委員(常任理事)	中田 純司	京都	山科大石
委員(常任理事)	小谷 浩一	読売	西大津
委員(常任理事)	播田 伸治	神戸	加古川
委員(常任理事)	中村 龍男	毎日	豊中
委員(常任理事)	佐野 雅一	日経	大阪中央販売

支部長

大阪市連合支部	中村 次郎	読売	嶋野
大阪府北部支部	衛 淳平	読売	富田北高槻真上
大阪府中部支部	中野 宅視	毎日	瓢箪山南
大阪府南部支部	竹本 雅則	読売	東貝塚
京都市支部	藤田 雅宣	京都	桃山北
京都府北部支部	竹中 潤之	毎日	北舞鶴
京都府南部支部	片角 保則	毎日	八幡
阪神支部	今村 全孝	毎日	宝塚北
神戸市支部	水越 太士	読売	新開地
明石・西神戸・淡路支部	森本幸太郎	読売	西明石
兵庫県支部	内間 良仁	毎日	姫路中央
北兵庫支部	王鞍 篤	神戸	篠山
滋賀県支部	濱本 博樹	朝日	堅田
奈良・三重支部	紙谷 昌法	産経	真菅
和歌山支部	伊藤 泰宏	読売	和歌山南部



小谷常任理事



小西相談役

※次回の近畿報は通常
発行日



清水支部長

(3面からつづく)

地方の配運維持
今後の課題にしよう

議事終了後、小谷浩一
常任理事(読売・西大津)

が代表意見。「私は労務環境に携わってきたので人材について話したい」としたうえで、「いまの24年問題の影響が、朝刊配達の募集が、来いを感じる。募集を

かけたら人が来る可能性がある。一人でもこの新聞販賣業に入ってもらいたい。仕事が減少している人もあるから、その辺りの情報を共有できればと思う。求人広告会社の

人と話したが、過疎地への求人数は都市部の方が少ない。一人でもこの新聞販賣業に入ってもらいたい。休刊日増設について会員同士で意見交換していきたくて呼び

が新聞販賣業で働く人も作りたい」と述べたほか、今後、休刊日増設について会員同士で意見交換していきたくて呼びかけた。

理事会の最後挨拶に立った小西相談役(読売・柏原)は、この2年間、理事長をはじめ専務理事、監事の皆様、今回退任される皆様、お疲れ様でした。引き続きご協力を。皆様の益のため「近畿」を折衷する」と感謝の言葉を述べた。

任期最後の理事会となった。任期を終える理事・支部長が挨拶した。

清水支部長(朝日・奈良日盛色)は、「30年ほどの仕事に携わってきたが、実は何となく理解していなかった」と打ち明けたうえで、「自分の中で学校の図書館の新聞配進は、ポイントの仕事だった。奈良県ですべての学校が新聞をとってくれた年間3千万円以上のお金がもたらされると思い、それが自分のモチ

ベーションになった。田原町と樫原市で新聞を掲げる事ができたが、これを広げていくために「期待したい」と次期体制にエールを送った。また、清水支部長は「この業界大変なところになっている」と、新聞販賣店を取り巻く厳しい経営環境に触れ、「ウチは14年間、新聞販賣を続けているが、自信と誇りを持って後世に残していきたい。それは備わっていないアカン。日販協近畿の繁栄、皆様の商売の発展を祈ります」と呼びかけた。